

中国経済は力強さ欠くも、一部指標は改善

ポイント① 長引く不動産不況が成長の重石

中国国家統計局が18日に発表した、2023年7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.9%となり、4-6月期から減速しました。23年の実質GDP成長率の政府目標「5%前後」は保守的な目標と見られていましたが、不動産不況が重石となり、当初想定ほど景気回復に力強さはありません。ただし、1-9月期の実質GDP成長率は+5.2%であり、このままの勢いであれば達成となりそうです。

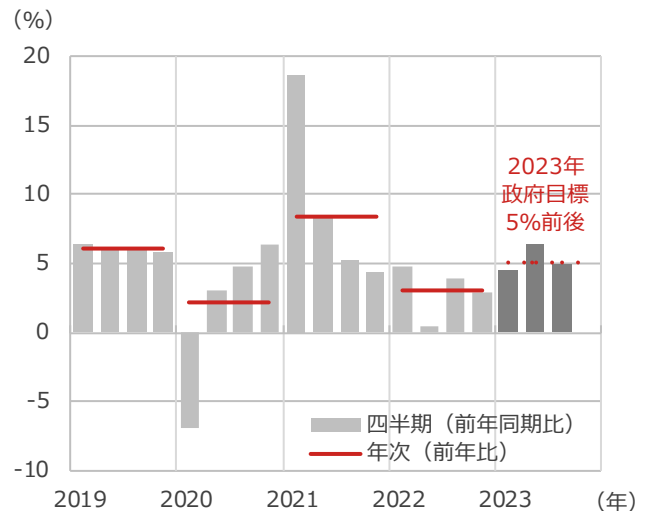
ポイント② 一部経済指標には明るい兆しも

同日発表された中国主要経済指標によると、1-9月の不動産開発投資は前年同期比▲9.1%となりマイナス幅が拡大、低迷が続いています。一方で一部の経済指標には明るい兆しが見えます。鉱工業生産指数は新エネルギー車の堅調な伸びが続いたことなどから、9月は8月と同水準の前年同月比+4.5%となったほか、個人消費の動向を示す小売売上高は食品や飲料など生活必需品がけん引し、9月は同+5.5%となり8月から伸びが加速しました。

ポイント③ 23年は製造業や個人消費が鍵

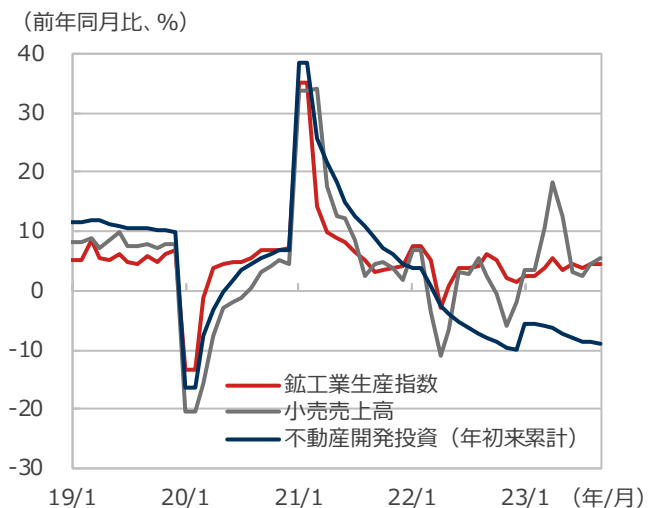
9月下旬からの国慶節（建国記念日）を含む大型連休期間では飲食などが堅調で、サービス消費の回復が継続している様子が示されました。不動産不況の短期的な解決は難しいことから、23年の経済成長率の政府目標達成を確実なものとするためには、景況感に底打ち感が見られる製造業や、個人消費の動向が鍵を握ります。ただし、24年以降の持続的な成長に繋げるためには、GDPの2～3割程度を占めると言われている不動産市場（建設業を含む）の回復が重要であり、政府の更なる支援策が待たれます。

中国の実質GDP（国内総生産）成長率



期間：四半期 2019年1-3月期～2023年7-9月期、四半期
年次 2019年～2022年、年次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

中国の主要経済指標



期間：2019年1月～2023年9月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

- 10月31日 中国製造業/非製造業PMI (購買担当者景気指数、10月)
- 11月7日 中国貿易収支 (10月)